

Πολυκατοικία と Μονοκατοικία

石原 昭男



これは『語学王・現代ギリシャ語』（福田千津子、三修社、1997）の29ページに描いたイラストである。

「町では多くの人が πολυκατοικία に住んでいます。この πολυκατοικία の中の一戸分の区画を διαμέρισμα と呼びます。それに対して、一戸建ては μονοκατοικία です。他に、一般的な言い方として σπίτι という単語があります。」という文章に続いて、5 cm×9 cmのスペースにイラストは描かれている。もちろん、イラストレーターの私の所にゲラが来たときには、このスペースは空白だった。しかし、πολυκατοικία と μονοκατοικία の説明のすぐ後ろにあるからには、この空白のスペースを πολυκατοικία と μονοκατοικία にふさわしいイラストで埋めなければならない。

語学入門書や語学教科書のイラストは

- 1) 読者にやる気を起こさせる工夫
- 2) 読者の理解を助ける工夫
- 3) 学習に疲れた読者の頭を癒す工夫

が不可欠であるというのが私の持論だから、マンションと一戸建てを並べて描

いて、お茶を濁すというわけにはいかない。

しばらく瞑想に耽っていると、頭の片隅で何やら動いたような気がした。そこに、何の脈絡もなくカタツムリがいた。これこそ私が描きたかった μονοκατοικία だ。

その直後、頭の反対側の隅にハチの巣が現れたが、この πολυκατοικία は無視することにした。ハチの巣とカタツムリを並べて描いても、いい絵柄になるとは思えないからだ。

こうして上のようなイラストに落ち着いた。

後日、「語学王」の読者が μονοκατοικία と再会したとき、「カタツムリ」を思い出し、すぐに「一戸建て」を思い出してくれることだろう。(μονοκατοικία がカタツムリだと思いこんでしまった読者がいたとしたら、イラストレーターとしては「ごめんなさい」と謝るしかない…)

「語学王」からもうひとつ例をとる。

57 ページに「どのくらい?」というタイトルで頻度を示す 5 つの語 ποτέ, καμιά φορά, συχνά, συνήθως, πάντα が紹介されている。説明文は 3 行あるだけで、ほぼ 1 ページ大の 13 cm×9 cm がイラストレーターの手に乗ねられている。これだけまとまったスペースに、バラバラのイラストを 5 枚並べたのでは、あまりに勿体なさすぎる。ここは一枚の絵としても見ごたえのあるものにしたい。

というわけで、同じ背景の中で、同じ人物がちょっとした動きによって、あるときは ποτέ となり、あるときは συχνά になるという枠組みを思いついた。

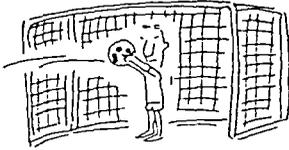
だが、どんな人物を登場させればいいのか。「家に忍び込む泥棒」とか「料理で失敗するコック」を使って ποτέ や συνήθως を考えたが、今ひとつピンとこない。

そして最後に残ったのが「サッカーのゴールキーパー」であった。

キャラクターに決定したゴールキーパーはひとりで勝手に動き出す。あるときは ποτέ を演じ、あるときは καμιά φορά を演じてくれる。5 コマ目の πάντα を演じてくれたときなどは、私は思わずニンマリしてしまったほどだ。

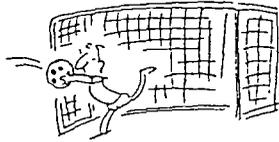
紙面の関係で「語学王」に載っている約 200 枚のイラストの中から 2 点だけ紹介したが、語学入門書におけるイラストが、単なる「場所ふさぎ」ではなく、著者の意向を汲んだ、強力な助っ人になっていることが、十分納得できたことと思う。

ποτέ
0%



καμιά φορά
(κάπου κάπου)
30%

συχνά
70%



συνήθως
99%

πάντα
100%

